



10/15隠岐大会での認定証授与(上段右)、市民講座の様子(上段左)、9/24認定決定の瞬間(下段右)、道遊の割戸(下段左)



日本ジオパーク認定、決定!



～楽しく学べる島、もう一度行きたくなる島へ、佐渡ジオパークから魅力を発信～

■日本ジオパークへの仲間入り

佐渡市を含む「佐渡ジオパーク推進協議会(会長:甲斐元也佐渡市長)」が進めてきた日本ジオパークネットワークへの加盟が、9月24日(火)に開かれた日本ジオパーク委員会で正式に認められました。

同日、佐渡市役所に設けられた特設会場で待つ甲斐会長が認定の知らせを受けると、関係者からは歓声が自然と沸き起こりました。

■ジオパークとは

ジオパークは、地質や地形などの地球活動の記録を保全して研究教育に生かすとともに、地質や地形のなりたちや、それらと人の暮らしの関わりを実感して楽しむところです。

ユネスコが支援する世界ジオパークネットワーク(GGN)がこの仕組みを推進しており、地形、地質など地球に関する素晴らしい自然遺産に加えて、大地につながるのがある文化遺産があり、その良さを訪問者に楽しんでもらえるようなジオツーリズムの活動と、それを継続して運用できる地域が世界ジオパークに認められています。その国内版が、日本ジオパークネットワーク(JGN)です。

■佐渡ジオパークの役割と責任

佐渡ジオパークは、自然遺産の保全、学習・教育への活用、ジオツーリズムの仕組み作り・実施という3つの柱を推進し、持続可能な地域社会の実現を見つめ直す公園を目指しています。

今回の認定審査では、世界文化遺産への登録、国内で初めて登録された世界農業遺産(GIAHS)をはじめとする特徴的なジオ多様性を見ることが出来る島で、佐渡の形成史や生態系、そして、歴史・文化のストーリー性などを合わせ持つ点などが認められました。特に学校教育と社会教育における取り組みと調査研究の活動について大きな評価を受けました。

今後は、他のジオパーク推進地に見えない魅力あるジオパーク作りを進めるため、市民と参画しながら各ジオサイトの整備を進め、島に残る貴重な資産と人々との営みが一体となったストーリーを展開していくことが必要です。

そして、市民をはじめ、佐渡を訪れる人々が楽しく学べる空間を提供していくことが、日本ジオパークネットワークに加盟した認定地としての責任でもあります。